

はじめに

栃木県には、日光や那須などの雄大な山々やのどかな里山の豊かな自然があり、さらに世界文化遺産「日光の社寺」やユネスコ無形文化遺産に登録された「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」、「烏山の山あげ行事」などの世界に誇れる歴史や文化にも満ちています。また、豊富な水資源や穏やかな気候にも恵まれており、半世紀以上生産量日本一のいちごをはじめ、にらやなし、生乳、そばなど、各地で多彩な農産物が生産されています。これらの自然や歴史、文化、食などを求め、多くの観光客が本県を訪れており、近年増加を続けている本県観光客入込数は、平成30（2018）年に過去最高の9,543万人となりました。

さて、近年、体験活動をすることや、自然景観やその土地の食を楽しむことなどの「コト消費」に対する旅行者のニーズが高まってきています。首都圏からのアクセスがよく、豊富な地域資源に恵まれた本県農村地域には、「コト消費」を求めて多くの旅行者が訪れております。本県の農産物直売所や農村レストラン等の都市農村交流施設の利用者数は年々増加しており、平成30（2018）年度には、過去最高の1,968万人が本県農村地域を訪れました。

このようなニーズの高まりの中、農村地域において自然や文化、その地域の人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動であるグリーン・ツーリズムの取組を展開・拡大することは、地域に雇用機会を生むとともに、所得の向上や、人口流失抑止など、農村地域の活力維持につながります。また、都市住民が、農業体験などを通じて、四季を通じた継続的な来訪が可能となり、地域と深い関わりを持つ関係人口の増加、ひいては将来的な移住・定住にもつながっていきます。

本書は、グリーン・ツーリズムによる地域活性化を目指す方や各市町の担当者などを対象に、その効果や地域における合意形成、連携の手法などをまとめたものです。

地域づくりの一環としてグリーン・ツーリズムに取り組む上での参考にしていただければ幸いです。

令和2（2020）年3月

栃木県農政部

I	グリーン・ツーリズム総論	1
1	定義	1
	①グリーン・ツーリズムとは	
	②グリーン・ツーリズムの実践イメージ	
2	地域活性化の手法としてのグリーン・ツーリズム	3
	①グリーン・ツーリズムの5機能	
	②地域回遊	
	③経済的活性化と社会的活性化	
II	グリーン・ツーリズムを取り巻く環境	5
1	近年の旅行者のニーズ	5
	①個人旅行者	
	②訪日外国人旅行者	
	③教育旅行	
	④交流人口、関係人口の増加からやがて移住定住へ	
2	国の方向性	9
3	栃木県の観光客入込数と都市農村交流施設の利用状況	10
	①観光客入込数	
	②都市農村交流施設の利用者数	
III	グリーン・ツーリズム実践	11
1	地域連携とコーディネーター	11
	①地域での取り組み方と合意形成～後方支援の重要性～	
	②連携の進め方	
	③コーディネーターとは	
	④インタープリター	
2	商品の作り方	21
	①プログラムとは～目的を達成するための手段～	
	②プログラムの計画立案	
	③プログラムの実践	
	④プログラムの評価と改善	
IV	優良事例紹介	30
1	栃木県	30
	①加蘇地区ふるさとづくり協議会	
	②NPO法人 太平山南山麓友の会	
	③小砂village協議会	
2	国・他自治体	35
V	関係法令	36
VI	栃木県の事業紹介	38